

WORLD  
**YMCA**



# 世界 YWCA/YMCA 合同祈禱週

2024年11月10日～11月16日



## 自然現象に学び

信仰をもって歩む

水 | 地 | 火 | 風をテーマに

# 目次

3	両会長からのメッセージ
4	はじめに
5	第1日：嵐の中を信仰をもって歩む
10	第2日：干ばつの中を信仰をもって歩む
16	第3日：谷間を信仰をもって歩む
21	第4日：荒れ野を信仰をもって歩む
25	第5日：炎の中を信仰をもって歩む
30	第6日：闇の中を信仰をもって歩む
35	第7日：世界を信仰をもって歩む（礼拝：礼拝順序）
40	謝辞
41	聖書日課 2025

# 共同メッセージ

## 世界 YWCA と世界 YMCA の会長から

1904 年以来、「世界 YWCA/YMCA 合同祈禱週」は、私たちの世界的な運動をひとつに結びつけ、祈りと振り返りの伝統を大切にしてきました。毎年 11 月、この祈禱週は、私たちの共同体が現在直面している現実と必要性に関連したテーマに基づいて私たちを集めます。

2024 年世界 YWCA/YMCA 合同祈禱週を迎えるにあたり、私たちは計り知れないグローバルな課題に直面しています。中東、アフリカ、東欧では戦争が人々の生活と地域社会を荒廃させています。アメリカ大陸や東南アジアでは体制的な抑圧が無数の地域を襲い、サイクロン、洪水、気候危機の深刻化といった環境災害が世界中で家族を奪い、生活を脅かしています。これらの厳しい現実、私たちの心に重くのしかかり、命のよろさを思い起こさせ、同時に癒し、正義、そして集団行動への緊急の呼びかけをも思い起こさせます。今こそ、私たちはこれまで以上に信仰と目的をもって団結し、平和と公平な世界を目指して行動しなければなりません。

このような苦闘のとき、私たちは自分自身を超え、信仰と精神的伝統、そして共通の価値観から力を引き出すよう求められています。祈りであれ、内省であれ、瞑想であれ、私たちは苦しむすべての人々と連帯し、互いに高め合い、思いやりと正義を主張する集団的な義務を認識するために集います。希望に根ざした信仰は、私たちをすべての人にとってより公正で平和な世界へと導いてくれます。2024 年 11 月 10 日から 16 日まで、「自然現象に学び、信仰をもって歩む」というテーマで、信仰がどのように人生の試練を乗り越える助けとなるかに水、地、火、風のスピリチュアルな意味から焦点を当てます。

YWCA と YMCA の世界的な運動の中で、私たちは信仰、文化、そして私たちが強くする考え方の豊かな多様性を尊重します。私たちの美しい違いを称え、共感、連帯、そして正義へのコミットメントを育みます。生涯学習者として、また地域社会の擁護者として、私たちは虐げられている人々や疎外されている人々に寄り添います。

私たちの日々の祈り、物語、そして共有された体験を通して、私たちが回復力を鼓舞し、正義のための集団的な活動に力を注ぐことができますように。私たちはともに、意義ある変化を生み出し、地域社会の幸福を促進し、すべての人にとって公正で持続可能な世界を確保することに粘り強く取り組んでいかなければなりません。

この「2024 年合同祈禱週」において、私たちの運動を強化する多様性を十分に受け入れ、心を開いて参加するよう招待します。水、土、火、風といった要素を通して、揺るぎない信仰をもって前進し、互いの中に、そして私たちが共有する世界の中に神の存在を認識しましょう。この聖なるものとのつながりが、世界の YWCA と YMCA の変革の活動に火をつけます。今こそ団結し、意義ある行動を起こし、正義と公平さ、そして持続可能な平和を約束する明るい未来のために、グローバルに努力する時なのです。

ミラ・リゼック  
世界 YWCA 会長

ソヘイラ・ハイエック  
世界 YMCA 同盟会長

# はじめに

## 一週間の祈祷活動に参加しませんか。

世界YWCAと世界YMCAは、1904年以来パートナーシップを組み、「合同祈祷週」を開催してきました。2024年11月10日～16日の間、この冊子を使って、ぜひご参加ください。個人で参加することもできますし、小グループを作って、毎日短いデボーション（祈り）を一緒に行うこともできます。この週間の活動は、6日間のデボーションと、オプションとして7日目に行われる集団礼拝で構成されています。

## テーマについて

2024年世界YMCA/YWCA合同祈祷週のテーマは、古典的な四大元素である「水」「地」「火」「風」に基づいています。この週を通して、私たちは聖書や日常生活の中で描写され、体験される元素のさまざまな側面を探求します。祈りは、内省的な視点と、変化を促す呼びかけの両方をもたらします。

この「2024年世界YMCA/YWCA合同祈祷週」が、私たちが信仰に根ざし、神の導きを信頼し、私たちが目的を持って奉仕し、光に導かれながら、神の愛を分かち合う助けとなることを願っています。

## この小冊子の使い方

### 第1日から第6日まで

聖書の朗読、序論、解釈、応用、質問と考察のポイント、そして祝福の祈りが6日間それぞれに盛り込まれています。また時間があれば、日中にできる創造的なアクティビティもあります。グループを率いる場合は、事前に目を通し、祈り、準備する時間を取ってください。

聖書の朗読や祈りなど、特定の箇所を読むよう、グループのメンバーに依頼しましょう。

**7日目：**YWCA/YMCAの中には、一週間を集団礼拝で締めくくるところもあります。

### 聖書日課 2025

この小冊子の最後に、2025年の聖書日課を掲載しました。年間を通しての聖書通読にお役立てください。

### 皆様のご意見をお聞かせください！

ハッシュタグをつけて、あなたの計画、証し、個人的またはグループ的な考えや経験を投稿してください。：

#WWOP24

イェンス・クリスチャン・カーク（リード・エディター）

DAY 1

# MOVING WITH FAITH THROUGH THE STORM

Sára Dzvonicová, YMCA Czech Republic

## 第1日

嵐の中を信仰をもって歩む

サラ・ズボニコヴァ（チェコ共和国 YMCA）

### はじめに

YMCA と YWCA の運動は、しばしば混沌として予測不可能と感じられる世界において、希望の光となるよう求められています。そのような時、私たちの信仰は、他の人々の力となり、困難の中にいるのは自分一人ではないことを思い出させます。世界は今日 経済格差、社会的不公正、環境危機など無数の課題に直面しています。それは、ガリラヤ海の嵐のように、圧倒されるように感じられるかもしれません。しかし、こうした課題は変革の機会でもあり、地域社会が信仰と行動において団結し、世界におけるキリストの手となり足となる機会でもあります。

今日、私たちに慰めと確信を与えてくれる、聖書から導かれた6つの基本的真理について考えるよう招かれています。すなわち、神は全能であり、すべてのものの上におられること、神は、私たちの生活に秩序と目的をもたらされること、嵐は人生の旅の避けられない部分であること、キリストはいつも私たちとともに船に乗っておられること、私たちの祈りは聞かれ、私たちの信仰は極めて重要であることです。これらの真理を深く掘り下げるとき、神は常に私たちを支配し、深く顧みておられることを知り、私たちが新たな力と平安を見出すことができますように。

## 聖句

### ■創世記 1:1-10

初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。

神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。

神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。

夕べがあり、朝があった。第一の日である。

神は言われた。「水の中に大空あれ。水と水を分けよ。」神は大空を造り、大空の下と

大空の上に水を分けさせられた。そのようになった。神は大空を天と呼ばれた。

夕べがあり、朝があった。第二の日である。

神は言われた。「天の下の水は一つ所に集まれ。乾いた所が現れよ。」そのようになった。神は乾いた所を地と呼び、水の集まった所を海と呼ばれた。神はこれを見て、良しとされた。

### ■マルコによる福音書 4:35-41

その日の夕方になって、イエスは、「向こう岸に渡ろう」と弟子たちに言われた。そこで、弟子たちは群衆を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。ほかの舟も一緒であった。激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水浸しになるほどであった。しかし、イエスは艫の方で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言った。イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり凪になった。イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」弟子たちは非常に恐れて、「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と互いに言った。

## 解釈と適用

今日の箇所をよく読むと、人生の試練の中で私たちの信仰を支える 6 つの重要な真理が浮かび上がってきます：

### 1 | 神は全能であり、すべてのものの上におられる

創世記 1:1 には、天と地の創造主である神の全能の性質が示されています。この聖句は、神がすべての被造物に対して最高位であることを強調しています。被造物の驚くべき繊細さ、息をのむような複雑さを通して、創造主の永遠の力と神性がはっきりと見て取れます。神の力は比類なく、計り知れません。神が世界を語り、存在させたように、私たちの人生における最も混沌とした絶望的な状況にも、神は生命と秩序と希望をもたらすことができます。神の全能の力は、単に遠い力ではなく 私たちの理解を超えた介入と支援を提供する準備ができています。神の支配を越える物は何もない事を知りながら、私たちは神を信頼するよう招かれています。

### 2 | 神は秩序と目的をもたらす

世界を創造するにあたり、神は混沌から秩序を築かれました。神は光と闇を分けられ、陸と海を分けら

れました、すべてのものに特定の目的を持たせられました。聖書の最初の箇所、創世記1章1節では、神の救済の計画と被造物との関係に対する神の深い願いについての宇宙的な物語の舞台が用意されています。聖書は、私たちの人生は神との関わりの中でその意味と目的を見いだすことを教えています。神の神聖な秩序は私たちの人生にも反映されます。そして私たちが自らを神の計画に一致させるとき平和と充実感を味わうことができます。この天地創造の物語は、神が創造主であるだけでなく、持続者でもあることを私たちに確信させてくれます。暗闇に光を、無秩序に秩序をもたらすために絶えず働いておられます。しかし、私たちが神の秩序から外れるとき、個人生活であれ、人間関係であれ、地域社会であれ、混乱が生じます。創世記における神の創造的な働きは、神の壮大な設計の中で、私たちの人生には意味と目的があることを思い出させてくれます。私たちは偶然の産物ではありません。神の計画に織り込まれています。この現実を受け入れることで、私たちは意図をもって生き、私たちが行うすべてのことにおいて神の知恵と方向性を求めていくようになります。

### 3 | 嵐の必然性

マルコによる福音書4章35節から41節にある、イエスが嵐を静めたという記述は、嵐はすべての人の人生の一部であることを強調しています。試練や苦難から免れる人は誰もいません。これらの嵐はしばしば予期せず襲いかかり、私たちの信仰と回復力への試練となります。弟子たちでさえも、イエスの前にいたにもかかわらず、嵐から免れることはできませんでした。このことはキリストの弟子であることは、試練と無縁の人生を意味するのではないことを教えています。それどころか、こうしたすべての困難の中で、私たちは孤独ではないのだと勇気づけてくれます。嵐は私たちの信仰を試しますが、同時に成長し、神への信頼を深める機会を与えてくれます。

### 4 | 私たちの舟にキリストがおられる

マルコの物語で最も慰めになることのひとつは、嵐が吹き荒れるなかでも、イエスが弟子たちとともに舟の中におられたことです。イエスは眠っておられたが、そこにおられました。その存在がすべてを変えました。これは、キリストが私たちと共におられるという真実を象徴しています。キリストの臨在は、私たちの意識に左右されるものではなく、私たちが信仰によって信頼する不変の現実なのです。パニックに陥ったり、疑心暗鬼に陥ったり、恐怖を感じたりするとき、私たちはキリストが私たちとともにいてくださり、嵐の中を導いてくださるという確信に安らぐことができます。私たちの人生におけるキリストの存在は、たとえ状況が変わらなくても、平安と落ち着きをもたらしてくれます。

### 5 | イエスは私たちの声を聞いてくださる - 祈りの力

「先生、私たちが滅びようとしているのを、お気になさらないのですか」と弟子たちがイエスに叫んだのは、私たちの祈りが、たとえそれが恐れや絶望から生まれたものであっても、神の心に届くという痛切な例であります。嵐を静めるというイエスの即座の応答は、イエスが私たちの叫びを聞き、私たちの懇願に心を動かされ、本当に心配してくださることを示しているのです。祈りは、キリストの存在に対する私たちの意識を目覚めさせ、私たちの状況に神の介入をもたらす強力なツールです。祈りによって、私たちは神とつながり、神への依存を表明し、神の力を人生に招き入れるのです。嵐の中で、私たちの祈りは、私たちが切実に必要としている平安と解放をもたらすことができます。

## 6 | 信仰の必要性

最後に、この物語は特に困難な時代における信仰の重要性を強調しています。信仰とは単なる信念体系ではなく、人生の波に押しつぶされそうになったときに私たちを支えてくれる神への積極的な信頼です。筋肉と同じように、信仰は、祈り、聖句を読むこと、礼拝といった日々の実践を通して鍛えられ、強化されなければなりません。

そうすれば、嵐が来ても、私たちはしっかりと立つことができます。弟子たちの体験が教えてくれるのは、信仰とはすべての答えを持っていることでも、恐れから解放されることでもないということです。信仰とは、神のなさることを理解できないときでさえ、神の愛と力を信じるということなのです。結局のところ、信仰は神の愛と主権という現実私たちをつなぎとめ、勇気と希望をもって人生の嵐を乗り切ることを可能にしてくれます。

## 振り返り

- あなたは現在、自分の人生や地域社会でどのような嵐に直面していますか？
- 私たちは集団運動として、あるいは地域社会として、人生の試練に打ちひしがれている人々にどのような支援を提供できるでしょうか？
- 混沌とした時に神の存在、愛、力を信頼するとはどういうことですか？

## 祝福の祈り

主なる神よ、私たちはあなたを愛と慈しみと限りない思いやりに満ちた全能の神として崇めます。あなたは万物の創造主です。そして、あなたの偉大さに畏敬の念を抱きます。私たちの人生における、特に困難な嵐の中での、あなたの揺るぎない存在に感謝します。私たちの心を静めてください。私たちが進むべき道が見えない時でさえ、あなたの力と愛に信頼することができるように助けてください。神様、私たちの信仰を強めてください、私たちが自信を持って歩むことができるように。あなたが常に私たちと共にありますように。私たちがあなたの愛と恵みをすべての行動にいつも反映させながら、希望と慰めの源となるように力を与えてください。私たちが信仰をもって前進し、どんな嵐の中でも安全と平安に導かれることを確信できますように。あなたの力ある御名によって、私たちは祈ります。アーメン

## クリエイティブ・アクション

「灯台になろう」励ましノート

この活動の目的は、個人的な励ましの言葉を書いて届けることで、嵐の中にいる人を照らす光になることです。参加方法は、

### 1 | 困っている人を特定する

あなたの地域で困難に直面している人たちを考えてみましょう。個人的な苦難から健康上の問題、制度的な不正まで、さまざまな問題が考えられます。あるいは単に親切な言葉をかけてあげられる人 友人、隣

人、同僚、その他、支援を必要としていそうな人を思い浮かべてください。

## 2 | 個人的なメモを書く

励ましのメッセージを添えて、心のこもった短いメモを書きましょう。それぞれのメモには、その人に合った前向きで元気の出るメッセージを書きましょう。シンプルな応援の言葉は大きな違いを生みます。

## 3 | ノートを届ける

ノートを手渡ししたり、誰かの机の上に置いたり、郵便で送ったりすることもできます。思いがけない親切のメモを受け取ったときの驚きは、希望と安らぎを与え、受け取った人に自分は一人ではないことを思い出させます。

この単純な行為は、誰かの一日に強いインパクトを与えることができます。大切な存在であることを示し、どんなに暗いときでも必ず光があることを思い出させます。

DAY 2

# MOVING WITH FAITH THROUGH THE DROUGHT

Joshua Hastings, YMCA England & Wales

## 第2日

### 干ばつの中を信仰をもって歩む

ジョシュア・ヘイスティングス（イングランド&ウェールズ YMCA）

#### はじめに

充実した、実りある人生を送るために必要な要素とは何でしょうか。

ある人は、友人や家族、愛する人と過ごすことで充実感を得るかもしれません。勉強してキャリアを成功させることも、やりがいをもたらすかもしれません。新しい刺激的な目的地への旅行、自然の驚異の探求、ボランティア活動や奉仕活動に大切な時間を捧げることも、やりがいをもたらしてくれるかもしれません。人生を満たすユニークな方法はいろいろありますが、しかし、人生を全うするために不可欠な普遍的な必需品もあります。

世界人権宣言は、すべての人に共通の達成基準を定めています。これらの権利の中心は、平等、自由、正義です。これらは 平和と善意と愛に満ちた人生を送るために必要なものです。

すべての生命が繁栄するために水が不可欠であるように、平等、自由、正義もまた不可欠です。しかし、不平等、差別、あらゆる形態の人種差別の世界的な例は、それらの大切なものがますます失われていることを示唆しています。:

- 世界の 10%の富裕層が全資産の 75%以上を所有しています。(BCTI)
- 若者の 63%が、学校、地域社会、職場で差別があると答えています。(ユニセフ)

■3分の1以上の国で、若い女性の少なくとも5%が、子どもの頃に性的暴力を受けた経験があると報告しています（ユニセフ）

社会から疎外され、弱い立場に置かれた人々が不公正な扱いを受け続けることは、尊厳の干ばつを招きま  
す。公正な世界を目指す私たちは、この干ばつの中をどのように信仰を持って進んでいけばよいのでしょ  
うか、差別を撤廃し、抑圧を打倒するために。

## 聖書朗読

■使徒言行録 8: 26-40

さて、主の天使はフィリポに、「ここをたつて南に向かい、エルサレムからガザへ下る道に行け」と言っ  
た。そこは寂しい道である。フィリポはすぐ出かけて行った。折から、エチオピアの女王カンダケの高官  
で、女王の全財産の管理をしていたエチオピア人の宦官が、エルサレムに礼拝に来て、帰る途中であった。  
彼は、馬車に乗って預言者イザヤの書を朗読していた。すると、“霊”がフィリポに、「追いかけて、あの馬  
車と一緒にいけ」と言った。フィリポが走り寄ると、預言者イザヤの書を朗読しているのが聞こえたので、  
「読んでいることがお分かりになりますか」と言った。宦官は、「手引きしてくれる人がなければ、どうし  
て分かりましょう」と言い、馬車に乗ってそばに座るようにフィリポに頼んだ。彼が朗読していた聖書の  
箇所はこれである。

「彼は、羊のように屠り場に引かれて行った。

毛を刈る者の前で黙している小羊のように、口を開かない。

卑しめられて、その裁きも行われなかった。

だれが、その子孫について語れるだろう。

彼の命は地上から取り去られるからだ。」

宦官はフィリポに言った。「どうぞ教えてください。預言者は、だれについてこう言っているのでしょうか。  
自分についてですか。だれかほかの人についてですか。」そこで、フィリポは口を開き、聖書のこの箇所か  
ら説きおこして、イエスについて福音を告げ知らせた。道を進んで行くうちに、彼らは水のある所に来た。  
宦官は言った。「ここに水があります。洗礼を受けるのに、何か妨げがあるのでしょうか。」そして、車を止  
めさせた。フィリポと宦官は二人とも水の中に入って行き、フィリポは宦官に洗礼を授けた。彼らが水の中  
から上がると、主の霊がフィリポを連れ去った。宦官はもはやフィリポの姿を見なかったが、喜びにあ  
ふれて旅を続けた。フィリポはアゾトに姿を現した。そして、すべての町を巡りながら福音を告げ知らせ、  
カイサリアまで行った。

■アモス書 5:24

正義を洪水のように恵みの業を大河のように尽きることなく流れさせよ。

■ヨハネによる福音書 4:7-14

サマリアの女が水をくみに来た。イエスは、「水を飲ませてください」と言われた。弟子たちは食べ物を買

うために町に行っていた。すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。イエスは答えて言われた。「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」女は言った。「主よ、あなたはくむ物をお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその生きた水を手にお入れになるのですか。あなたは、わたしたちの父ヤコブよりも偉いのですか。ヤコブがこの井戸をわたしたちに与え、彼自身も、その子供や家畜も、この井戸から水を飲んだのです。」イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渴く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」

## 解釈と適用

ヘブライ語の伝統では、預言者アモスは自分の社会の不正義について直接語りました。そこでは貧しい人々が虐待され、善を行おうとする人々が忌み嫌われていました。これらの人々には尊厳がなく、彼らに対する不当な扱いは、正しく生き、正しく治めよという神の命令に反していました。

この尊厳の干ばつ（枯渇）に対して、アモスは正義が「水のように流れ落ち、いつまでも流れ続ける小川のように」なることを求めています。（アモス書 5:24）これは、圧倒的で絶え間ない動きを連想させます。大きなバケツの水を地面に注ぐと、その水は四方八方に広がり、届くものすべてを濡らします。アモスの預言は、義と正義の自由奔放な流れが社会に注がれることを考えるよう、私たちを誘っています。私たちもまた、不正を糾弾し、善を渴望する人々のもとへ善が流れ込むのを制限しているものが何であるかを検証しなければなりません。

私たちは、この注ぎ込まれる神の正義がどのようなものであるかについて、イエスの生涯を通して学びます。イエスは、ヨハネによる福音書の中でサマリア人の女として描かれている人物との出会いの中で、その模範を示されました。このことは、女性を疎外し、サマリアの人々を差別する歴史的背景の中で、文化的に重要な意味を持ちます。このサマリア人の女性は、尊厳のない干ばつに耐え続けてきた結果、平等、自由、正義への飽くことのない渴きを抱えた状態にあるようです。

ユダヤ人であるイエスは、当時の文化的、性別的規範を踏みにじって、サマリア人の女性に近づき、受け入れ、話しかけることで、彼女に心を込めた一杯の水を差し出しました。サマリア人の女性が利用できる他の水源とは異なり、イエスが差し出した水は、平等、自由、正義を求める彼女の渴きを癒すために神の力でもたらされたものです。イエスはこの飲み物を「生きた水」と呼び、永遠の命へと湧き出します。私たちはこの永遠の命を、サマリア人の女性の不公正な立場と対比して考えることができます。それは平等、自由、正義によって構成されています。この水の象徴を通して、私たちは神の正義を、人間を満足させ、尊厳を与え、善良さを回復させようとするものとして見ることができます。また聖書において、この聖なる生ける水の泉は、社会から疎外され、差別された者に初めて啓示されたのです。

現在、同じように尊厳の干ばつに耐えている人々も、神に立ち返ることで、この世界の制度や制度に欠け

ている天の義と正義に触れることができるのです。

その後、使徒言行録の中で、私たちは平等と自由と正義を渴望する、もう一人の疎外された人物に出会います。エチオピア出身の宦官※1として描写されているこの人物は、外国出身であるだけでなく、定形的でない生殖器のありようや去勢を受けていることが理由で、初期キリスト教会では、特定の宗教的行事や儀式に参加することを禁じられていました。私たちが出会うとき、このエチオピアの宦官は、エルサレムから戻ってきたところです。この人は礼拝のためにエルサレムに行ったのですが、おそらく、上記のような差別的な掟を守る機関から拒絶され、平等、自由、正義の権利を否定されてきたのでしょう。

使徒フィリポは、エルサレムから離れた荒野を旅していたこのエチオピア人の宦官に出会います。イエスの徹底した受容の模範に倣い、フィリポは、慣習化された組織的な排除ではなく、駆け寄り、並んで座り、この人に話しかけざるを得ませんでした。使徒は、エチオピアの宦官がイエスについて尋ねたことを尊重し、水の洗礼を通して、この人をキリスト教の伝統の中に取り込みます。この水による行為は、イエスとの関係に入り、それによって神の正義と義に支配された生活に入ることを象徴しています。

#### ※1 脚注

宦官とは歴史的に、王室や宗教的な場での役割を担ってきた、去勢された男性のことです。この言葉は古代の社会的慣習を反映したのですが、しかし、現代のジェンダーとアイデンティティの理解は、より多様で流動的であることを私たちは認識しています。ここで使用する用語は、現代のジェンダーに関する議論に配慮しつつ、歴史的な文脈に沿ったものです。

これらの聖書の例に見られるように、水はすべての人類が繁栄するために不可欠なもので、すべての人に自由かつ平等に提供される根本的な包摂という形でももたらされます。それが生きている水を飲むことであれ、洗礼の水に浸かることであれ、イエスには正義と公正のさわやかな味わいがあります。私たちはYMCAとYWCAを通して、社会における尊厳の干ばつを緩和しようと努めるとき、私たちは天から降り注ぎ、地上に湧き出るこの正義の源泉を求めることができます。その水は天から降り注ぎ、地上に湧き上がり、公正な世界を潤すのです。

## 振り返り

■あなたが持っている自由の中で、最も大切にしているものについて考えてみてください。もしそれが制限されたらどう感じますか？

■サマリヤの女性とエチオピアの宦官は、部外者とみなされていたかもしれません。あなたのいる場所で差別を経験している人々は誰ですか？その人たちの権利はあなたとどう違うのでしょうか？

■全人類を公平に平等に扱う公正な世界を想像したとき、どんなことが思い浮かびますか？それがあなたの世界で現実になった例があれば、書き留めてください。

## 祝福の祈り

部外者とみなされた人々と社会の周縁にいる人々に、正義が注がれますように。

抑圧された人々が声を上げる環境や制度が正義によって改革されますように。

年齢、性別、人種、宗教、セクシュアリティ、その他分断を生むものにかかわらず、私たちが団結し、公平で公正な世界が築かれますように。

この尊厳の干ばつを癒すために、私たちに生きた水を降らせてください、そして、すべての人類の平等を尊重し、この世界に公正が流れますように。

イエスがサマリアの女にしたように、私たちが歓迎し、受け入れることができますように。

フィリポとエチオピアの宦官のように、私たちは耳を傾け、排除しないようにしましょう。

私たちすべてが必要とし、得られるべきである権利と自由を守りましょう、そして、私たちが仕えるすべての人を聖なるものとしながら、公正な世界に向かって信仰をもって歩いていきましょう。

アーメン。

## クリエイティブ・アクション

生きた水

このアクティビティの目的は、資源の重要性についての考察を促すことです。水とスポンジを、個人生活と地域生活におけるケアと栄養の分配の象徴（メタファー）として使います。

用意するもの： 小さなバケツ 2つ（水を入れたものと空のもの）、スポンジ。

### 1 | 導入

まずバケツに水を入れ、グループに次のような質問をする：

- 私たちは日常生活でどのように水に頼っていますか？
- 比喩的に、水は何を表しますか？(例：洗浄、元気回復、洗礼、生活水など)
- 今日の社会で、「井戸端の女性たち」とはどのような人たちでしょうか？

周辺に追いやられ、排除された人たちそして生きていくために必要な物を手に入れられない人たちとはどのような人たちでしょうか？

### 2 | スポンジ・デモンストレーション

水を張ったバケツにスポンジを入れる。

スポンジに水を吸わせ、空のバケツにスポンジを絞る。

グループに問いかける：

- 私たちはどのような形で、このスポンジのように、資源や思いやりを吸収し、分かち合うよう求められていますか？
- このアクションをやってみて、何か気づいたことはありますか？あなたが毎日している仕事や活動と、どのように関連づけられますか？
- スポンジを長い間水につけずにおくと、スポンジはどうなりますか？

私たちは 水のないスポンジのように「干からびた」と感じ始めたとき、自分をリフレッシュさせるために何ができるでしょうか？

オプション・テイクアウェイ

参加者一人一人に小さなスポンジを持たせ、「干ばつ」を体験している人々に生命と尊厳をもたらす自分の役割を思い出してもらいます。



DAY 3

# MOVING WITH FAITH THROUGH THE VALLEY

Laura Avilés, Latin America and Caribbean Alliance of YMCAs

## 第3日

### 谷間を信仰をもって歩む

ラウラ・アビレス（ラテンアメリカ・カリブ海YMCA同盟）

#### はじめに

谷間は、魅力的な気候のコントラストを見せ、標高と地形が重要な役割を果たしています。標高の低い地域では温暖で湿度が高く、標高の高い地域では涼しく乾燥した空気となります。こうした要素が溪谷をコントラストに富んだ場所にしており、人間の経験の二面性を反映しています。暖かさと喜びの瞬間と、寒さと困難の時期が交互にやってくるのです。

今日取り上げる箇所には、どちらも『谷』という言葉は使われていませんが、人生のどん底を経験し、洪水の雨や風のように困難な時がやってくることを描いています。人生の谷間に避難所を見つけることは、救いや救助のように感じられるかもしれません。ちょうど私たちが苦難に見舞われたとき、安全で安心できる場所を見つけたいのと同じように、私たちもまた、他の人たちの人生の厳しい天候から少し休むことができる場所でありたいのです。今日は 人生の谷間に立ち向かい、そして、他の人々が自分自身の谷間を信仰を持って歩いていけるように励ます方法を学びましょう。

## 聖書朗読

### ■詩篇 71: 1-7

主よ、御もとに身を寄せます。  
とこしえに恥に落とすことなく  
恵みの御業によって助け、逃れさせてください。  
あなたの耳をわたしに傾け、お救いください。  
常に身を避けるための住まい、岩となり  
わたしを救おうと定めてください。  
あなたはわたしの大岩、わたしの砦。  
わたしの神よ、あなたに逆らう者の手から  
悪事を働く者、不法を働く者の手から  
わたしを逃れさせてください。  
主よ、あなたはわたしの希望。  
主よ、わたしは若いときからあなたに依り頼み  
母の胎にあるときから  
あなたに依りすがって来ました。  
あなたは母の腹から  
わたしを取り上げてくださいました。  
わたしは常にあなたを賛美します。  
多くの人はわたしに驚きます。  
あなたはわたしの避けどころ、わたしの砦。

### ■マタイによる福音書 7：24-27

「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどかった。」

## 解釈と適用

詩篇 71 篇は、ダビデが後年、息子アブサロムの反乱の後に書いたという説があります。正確な事情はともかく、作者が苦難の中で神からの救いを求めて叫んでいることは明らかです。この詩篇は祈りのように読めますが、それはむしろ希望の宣言です。「あなたは私の希望」「私の信頼」「私の保護者」「私の砦」といったフレーズを口にするだけで、詩篇作者は神がどのような方であるかを自らに言い聞かせています。

人生の谷間を越えていくとき、私たちは自分が誰であるかを知り、神が誰であるかを思い出すことが重要です。「私は強い」「私は勇敢だ」「私は困難なことができる」といった肯定は、単なる単純な思考ではありません。肯定は、私たちの状況が必ずしも変わらなくても、私たちの視点を変える力を持っています。ダビデは、神がどのようなお方であるかを思い起こし、これらの肯定をさらに一步進め「あなたは私の希望」「私の信頼」「私の強い避難所」と言います。彼は振り返って「私の生まれた時から」神がどのようなお方であったかを思い起こし、そして神に、これからも自分の「避難所の岩」「私を救う強い砦」であり続けてくださいとお願いします。

岩の堅固な土台は、新約聖書のマタイによる福音書7章の物語にも反映されています。賢者とは、自分の人生を堅固な土台の上に築く人のことです。人生の嵐は来ます。洪水が押し寄せ、困難に遭遇します。そこで私たちに問われるのは 自分のためだけでなく、他の人のためにも、どのような人生を築いていくのかということです。 人生の過酷な嵐に耐えるために私たちは希望を語るのでしょうか？ 私たちは 避難する場所を持っているのでしょうか？ 私たちは、自分が持っている希望を他者と分かち合っているのでしょうか。 私たちは私たちの後に来る世代のために、強固な土台を築いているのでしょうか。

もし 詩篇 71 篇が、個人だけでなく、共同体に対する希望の宣言としても読めるとしたらどうでしょう。 そうすることで、誰一人辱めを受けることなく、すべての人が避難所を見つけ、救い出されますように。 もしマタイによる福音書7章が、私の家や私の人生についてだけでなく、私たちの共同体や地球についても書かれているとしたらどうでしょう。

私たちの後に続く人たちのために世界がより良い場所となるよう持続可能な方法で、私たちの足元の地球に投資しているのでしょうか？ 神がどのようなお方であるかを確認し、思い起こすよう、すべての人が求められている一方で、神は私たちをどのような存在へと招いておられるのか、私たちの隣人、私たちの国、そして私たちの世界全体の未来のためにどのような投資をするよう求められているのか、考えてみてほしいのです。

## 祝福の祈り

「希望の泉」

(スペイン語の祈りの翻訳)

恵みと愛の神、命と光の主、

私たちは、感謝と崇敬のうちに、あなたの前にひれ伏します。

神よ、あなたは私たちの避難場所です。

荒れ果てた時、砂漠の中にいる時、

あなたの御手は私たちを抱き、私たちはあなたの翼の陰に保護を見出す。

道がないと思われるところでも、あなたは道を開いてくださいます。

北の峡谷からの新鮮な水で私たちを養ってくださいます。

あなたは生ける水の川を、あなたの息子や娘たちに預けます。

私たちの苦悩を正義の道へと導いてくださいます。

あなたの贖われた者たちは、砂漠の道を確認をもって歩む。

永遠の喜びをもって、あなたの御名を賛美しながら。  
野生動物が咆哮しても、私たちに害はありません。  
なぜなら、アドナイよ、あなたは被造物を守る方だからです、  
あなたはすべての祝福の無尽蔵の源です。  
愛する救い主よ、私たちが昼の暑さと夜の寒さからお守りください。  
そして、あなたの抱擁の中に私たちをお連れください。  
私たちは新しい歌とタンバリンと踊りをもって、あなたを慕い求めます、  
あなただけが最高の賛美に値するからです。  
聖なる、聖なる、聖なる、あなたは主。  
私たちが私たち自身の砂漠と心の痛みからお救いください。  
力強い救い主、イエスよ、私たちはあなたを信じます、  
私たちはあなたに頼り、私たちの希望はあなたにあります。  
イエスの甘美で揺るぎない御名によって、私たちは祈ります。 アーメン

## クリエイティブ・アクション

アート&ストーリーテリング

このアクティビティは、アートとストーリーテリングを通して、人間の経験のコントラストを  
探求することを目的としています。

用意するもの：紙またはキャンバス、絵の具またはマーカー、日誌

### 1 | イントロダクション

渓谷とその気候のコントラストについてディスカッションを始める、温かく生命に満ちた渓谷もあれば、  
寒く不毛な渓谷もあるという話から始める。このことを、喜びや困難についての個人的な経験と関連づけ  
る。参加者に、自分の人生や地域社会における「暖かい」瞬間と「寒い」瞬間の両方を振り返るよう促す。

### 2 | アート制作

- グループを2つに分ける：一グループは「暖かさ」と喜び」、他方は「寒さと試練」に焦点を当てる。
- 各グループは、絵の具やマーカーなど用意されたものを使い、それぞれのテーマを表現する作品を作る。

### 3 | 振り返りの作文／分かち合い

作品を完成させた後、参加者は創作のテーマを反映した短い詩、祈り、個人的な物語を書く。  
自分たちの表現が心からのものであり、自分自身のものであるよう勧める。その後、グループで自分たち  
の振り返りを共有する。

### 4 | ディスカッション

最後に、私たちの地域社会と地球における暖かい瞬間と寒い瞬間について、グループで話し合いましょ  
う。参加者に、困難な時期に私たちがどのようにお互いを支え合い 将来の世代のために力を蓄えること  
ができるのか、参加者に考えてもらいましょう。

問いかける： どのようにしたら私たちは、個人として、また地域社会として、他の人たちの「拠り所」となることができるのでしょうか？

この活動は、内省、創造性、そして人間の経験の二面性について考える有意義な会話の機会を提供します。

#### 特典

ストーリーテリングについてもっと知りたい方は、世界 YWCA のストーリーテリングガイド『アクティビズムの物語を紡ぐ』↓をご覧ください。

<https://www.worldywca.org/team/world-ywcas-storytelling-guide/>

DAY 4

# MOVING WITH FAITH THROUGH THE FIELD

Solomuzi Mabuza, YMCA South Africa



## 第4日

荒れ野を信仰をもって歩む

ソロムジ・マブーザ（南アフリカ YMCA）

### はじめに

神はアダムとエバを含め、宇宙に存在するすべてのものを創造された。聖書にあるヘブライ語の物語の中で、神はアダムとエバを「私たちの」（複数形）イメージに似せて男と女に創造し、被造物の世話をする責任を与えたと書かれています。神は常に、人類が地球上で対等な立場で共存し、地球を世話をすることを意図していました。私たちは聖書の天地創造の物語の文脈を考察しながら、私たちがこの地球上で信仰を持って歩み、現在のグローバルな状況に対するメッセージを発見することができますように。

### 聖句

■創世記 3:17-19

神はアダムに向かって言われた。「お前は女の声に従い取って食べるなど命じた木から食べた。お前のゆえに、土は呪われるものとなった。お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。お前に対して土は茨とあざみを生えいでさせる野の草を食べようとするお前に。お前は顔に汗を流してパンを得る土に返るときまで。お前がそこから取られた土に。塵にすぎないお前は塵に戻る。」

## ■コリントの信徒への手紙— 12:14

体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。

## 解釈と適用

家父長制のレンズを通して読むことは、世界 YMCA や YWCA のためになりません。解放の神学の解釈学的ツールは、フェミニストやウーマニストの読者によって、このテキストを読み直すために活用され、特にそれを聞く女性にとっては、最初は不快に響くかもしれない一節に新しい意味を与えます。このメッセージの本質は、私たちは欺瞞に満ちた他のどんな声よりも、神の声に耳を傾けるべきだということです。同様に、私たちが大地を慈しみ、世話することは、常に神の人類に対する願いの一部でした。茨やアザミで汗を流す苦闘はそうは見えませんでした。私たちは皆、神とともに働く方法として、それを神からの罰とみなすのではなく、勤勉さを大切にするよう招かれています。公正な世界では、有意義な仕事は私たちの充実感と幸福に大いに貢献します。この再解釈は、罰に焦点を当てるような伝統的な読み方から脱却し、その代わりに、人類はスチュワードとして地球を世話する責任を託されているというビジョンを推進します。

この再解釈はそうやって、聖書の本来のメッセージを歪曲する抑圧的な体制に挑戦します。仕事と創造の両方が尊重され、大切にされる世界を提唱しています。私たちが地球を大切にすべき宝として扱うとき、持続可能な地球に向けて私たちは宇宙において正しいことを行うことができます。

二つ目の箇所は、神の被造物である人類がいかに互いに依存しているかを強調しています。創造主の意志を語るすべての声は、耳を傾けられ、特権や権力に関係なく、大切にされ、評価されるべきです。

構造的な罪とは、創造主の意志に反して語る声と同じです。不平等、貧困、失業は罪の結果です。女性は男性と同じ賃金が支払われない世界を経験してきました。未成年である子どもたちは貧困を利用する残酷な雇用者によって搾取されています。若者たちは世界のさまざまな地域で貧困と戦っています。主イエス・キリストが望まれたように、土俵は平らになっていません。信仰を持って荒れ野を歩むには、私たち全員が平等に扱われる公正な世界への取り組みが必要です。

第一世界と第三世界という分断があってはなりません。教育は富裕層の特権であってはならず、貧困層や社会から疎外された人々が受けられないものであってはなりません。宗教は、異なる人種や背景を持つ人々を分断し、差別してはなりません。むしろ宗教は団結と包摂性を促進すべきです。

統一体という考え方は、神の被造物としての私たちの言説の中心的な部分であるべきです。全人類はひとつの家を持っています。人類の発祥の地である地球を尊重しなければなりません。私たちは大地から創造され、塵となり、塵に帰ります。私たちのパンは土から生まれます。

## 振り返り

■有害な読み方をされる可能性のある他のテキストの例を挙げてください。

どのように読み直すことができますか。

■神があなたに与えた、あなたの手による仕事は何ですか？

■私たちのコミュニティで無視されてきた声は誰ですか？

■他の声に耳を傾けるために、私たちはこれまでと違ったやり方で何をしますか？

■私たちの地域社会や YMCA-YWCA 運動の中で、これまで関わることができていない人たちとどのように関わったらいいですか？

## 祝福の祈り

宇宙の創造主よ、私たちが正しい考え方でこの地上を歩むことができるように教えてください。宗教、人種、セクシュアリティ、信条、階級によって 他者を差別しないように教えてください。私たちの世界を公正な世界にするために私たち一人ひとりを強めてください。あなたが宇宙にお与えになった大地の管理人に、私たち全員をしてください。私たちが地球上で無視してきた声が届きますように。あなたが私たちを愛して下さったように、私たちが互いに愛し合えるように私たちが新しい息吹で満たしてください。すべての人が有意義な仕事を体験することができますように。三位一体の神の御名によって、これらすべてをお願いします。

アーメン。

## クリエイティブ・アクション 1

つながりの輪

このアクティビティの目的は、共同体と連帯責任の感覚を養う一方で、参加者が自分自身と他者、そして神との関係について、有意義な考察を行うことを奨励することです。

用意するもの： 糸または毛糸の大きな輪（または輪を作るための材料）、インデックスカード（紙）。マーカーまたはペン。

1 | 円を作る

団結と相互のつながりを表すために、床に大きな円を描くように糸や紐を敷きます。これは、グループの全員がどのようにつながっているかを象徴しています。

2 | 振り返りの質問

参加者にインデックスカード（紙）とマーカーを渡します。参加者に、以下の質問について考え、自分の考えを書いてもらいます。:

■あなたにとって、地域社会でのつながりとは何ですか？

■あなたの人生において、神の力や支えをどのように体験していますか？

- 私たちは、どのようにして互いにより深い関係を築くことができますか？
- 私たちは、どのような方法で協力し合い、世界に前向きな変化をもたらすことができるでしょうか？
- 私たちは、地域社会における公正と正義を促進するために、どのような手段をとることができますか？

### 3 | 洞察の共有

全員が回答を書き終えたら、参加者に自分の考えを共有してもらいます。参加者は、自分の回答を声に出して読むか、グループでまとめることができます。

### 4 | つながり築く

分かち合いの後、参加者はインデックスカードを手に取り、紐や糸を使って輪につなげます。紐や糸で結ぶか、円の中に入れる。この視覚的な表現によって、各自の洞察がより大きな共同体に貢献するという考えが強まります。

### 5 | グループ討議

最後に、一人ひとりの洞察・知見がどのようにコミュニティを形成していくことができるかについて話し合います。参加者に、出された質問に取り組むために自分たちができる行動について考えるよう促します。

### 任意の持ち帰り品

参加者は、ひもや糸を結び合わせてプレスレットにした小さな記念品を作り、持ち帰ることができます。これは、つながり維持し、生活の中で包摂性を育むことを約束する象徴です。

## クリエイティブ・アクション2

### 十字架への質問

祈りのグループのために十字架を用意するか、十字架を作ってください。十字架について、次の質問を自分に投げかけてください。

- あなたのコミュニティにおいて、十字架は何を表していますか。
- 神の力とどのように関わるべきですか（垂直方向）。
- 私たちは互いにどのように関わるべきですか（水平方向）。
- 私たちは一緒に、この世界をどのように良くしていくことができるでしょうか。
- 私たちは、フィールドを平らに（公平に）するために何をしますか。

DAY 5

# MOVING WITH FAITH THROUGH THE FIRE

Duncan Chowdhury, World YMCA

## 第5日

### 炎の中を信仰と共に歩む

ダンカン・チョードリー（世界YMCA同盟）

#### はじめに

火は有史以来、人類に親しまれてきた原始的な力であり、しばしば破壊を象徴してきました。先史時代、火は畏怖と恐怖の源でした。落雷による山火事で森全体が灰になるのを目の当たりにしました。しかし、時が経つにつれて 人類は火の力を利用することを学びました。火は肉をより安全に食べられるようにしました。原料の金属を有用な合金に変えました。そして生存と進歩のための道具となりました。火は破壊だけでなく浄化も意味し、私たちの日常生活において重要な役割を果たしています。

旧約聖書と新約聖書において火は、神の焼き尽くすような臨在、保護、浄化の力強い比喩です。火は破壊の力であるだけでなく、試練と清め的手段でもあります。人生はしばしば、私たちに比喩的な火 ― 私たちの強さと信仰を試す困難な状況― を見せます。神への強い信仰と神の教えを守ることで、私たちはこれらの試練から勝利を得ることができます。このような観点から考えると、火は、私たちが人生で直面する清めの試練と、忍耐を助ける神の恵みの象徴となります。

## 聖書朗読

### ■ダニエル書 3: 19-30

ネブカドネツアル王はシャドラク、メシャク、アベド・ネゴに対して血相を変えて怒り、炉をいつもの七倍も熱く燃やすように命じた。そして兵士の中でも特に強い者に命じて、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴを縛り上げ、燃え盛る炉に投げ込ませた。彼らは上着、下着、帽子、その他の衣服を着けたまま縛られ、燃え盛る炉に投げ込まれた。王の命令は厳しく、炉は激しく燃え上がっていたので、噴き出る炎はシャドラク、メシャク、アベド・ネゴを引いて行った男たちをさえ焼き殺した。シャドラク、メシャク、アベド・ネゴの三人は縛られたまま燃え盛る炉の中に落ち込んで行った。

間もなく王は驚きの色を見せ、急に立ち上がり、側近たちに尋ねた。「あの三人の男は、縛ったまま炉に投げ込んだはずではなかったか。」彼らは答えた。「王様、そのとおりでございます。」王は言った。「だが、わたしには四人の者が火の中を自由に歩いているのが見える。そして何の害も受けていない。それに四人目の者は神の子のような姿をしている。」ネブカドネツアル王は燃え盛る炉の口に近づいて呼びかけた。

「シャドラク、メシャク、アベド・ネゴ、いと高き神に仕える人々よ、出て来なさい。」すると、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴは炉の中から出て来た。総督、執政官、地方長官、王の側近たちは集まって三人を調べたが、火はその体を損なわず、髪の毛も焦げてはおらず、上着も元のままで火のおいすらなかった。ネブカドネツアル王は言った。「シャドラク、メシャク、アベド・ネゴの神をたたえよ。彼らは王の命令に背き、体を犠牲にしても自分の神に依り頼み、自分の神以外にはいかなる神にも仕えず、拝もうともしなかった。この僕たちを、神は御使いを送って救われた。わたしは命令する。いかなる国、民族、言語に属する者も、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴの神をののしる者があれば、その体は八つ裂きにされ、その家は破壊される。まことに人間をこのように救うことのできる神はほかにはない。」こうして王は、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴをバビロン州で高い位につけた。

### ■ヘブライ人への手紙 12: 28-29

このように、わたしたちは揺り動かされることのない御国を受けているのですから、感謝しよう。感謝の念をもって、畏れ敬いながら、神に喜ばれるように仕えていこう。実に、わたしたちの神は、焼き尽くす火です。

## 解釈と適用

ダニエル書には、この火の二重の象徴を力強く示す物語があります。バビロンのネブカドネツアル王は、民衆に彼が建てた金の像を拝むように命じました。しかし、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴの3人は、敬虔なイスラエル人でした。彼らは全能の神だけを礼拝することを信じていたので、それを拒否しました。彼らの反抗に激怒したネブカドネツアルは、彼らを通常の7倍も熱い炉に投げ込むように命じました。しかし奇跡的に、彼らが炉に入っても炎は彼らを焼き尽くしませんでした。彼らは無傷であっただけでなく、多くの人が神の臨在であると信じている第四の人が火の中に現れたのです。

この物語は、信仰を揺るぎないものとする人々を守る神の力を思い起こさせるものです。イザヤ書の預言と呼応します：「炎の中を歩いても、あなたがたは焼かれず、炎はあなたがたを焼き尽くさない」（イザヤ 43:2）。シャドラク、メシャク、そして アベデネゴは異国の地で捕囚となり、横暴な支配者に虐げられていました。そのような状況にもかかわらず、彼らは神に忠実であり続け、神に全幅の信頼を置きました。

同様に、日常生活においても、私たちはしばしば、迫害、差別、搾取、人権侵害といった試練という比喩的な火に直面します。女性と子どもは多くの国々で、社会から疎外されたコミュニティやマイノリティで、深刻な抑圧に直面しています。このような時、私たちの信仰は試されます。シャドラク、メシャク、アベデネゴの物語は、たとえ社会から妥協を迫られたとしても、自分の信念を貫くよう私たちを励ましてくれます。真実と正義のために立ち上がることは、対立を招くかもしれません。しかし、神への信仰はこのような試練を乗り越える力となります。

今日、現代世界は新たな形の偶像崇拜を提示しています。物質主義、消費主義、腐敗、権力の乱用、文化的支配は、現代の黄金像です。ちょうどネブカドネツアルが臣民の思想や信条を支配しようとしたように、現代の独裁者や抑圧的な政権は、異論を封じ、信教の自由を制限しようとします。このような試練に直面しても神に忠誠を誓う者は、シャドラク、メシャク、アベデネゴのように、神の恵みによって守られます。神は社会から疎外され、抑圧された人々とともにおられ、耐え忍び、最終的に克服する力を与えられます。

ダニエル書の物語の続きは、この点をさらに強調しています。シャドラク、メシャク、アベデネゴの奇跡的な生還を目の当たりにしたネブカドネツアルは、感動して、彼らの神に逆らう者はだれでも罰せられるという命令を出しました。この心変わりは、神への揺るぎない信仰が、最も強力な敵対者さえにも真理を認識させることを示しています。正義と正しさの追求を堅持するとき、勝利は私たち自身に訪れるだけでなく、他の人々にも真理を受け入れるよう促すこともあるのです。

新約聖書では、浄化の力としての火というテーマがさらに強調されています。『ヘブライ人への手紙』では、神の国は永遠で揺るがないものであり、何ものによっても覆すことはできないことを思い起こさせます。憐れみ深く愛に満ちた神は、公正で聖なるお方でもあります。神の聖さはしばしば火にたとえられ、不純物を焼き払い、ふさわしくないものはすべて焼き尽くします。この清めの火としての神のイメージは、私たちに高い基準の倫理的で道徳的な行動を守り、正しい生き方を求めています。

神は無限に私たちを憐れんでくださいますが、それでもなお、神は私たちに聖性のために努力することを求めておられます。火が不純物を取り除いて金属を精錬するように、神は私たちを精錬し、私たちの品性を試され、神の国にふさわしくないものを取り除きます。このような試練は痛みを伴いますが、成長の機会でもあります。試練は、神が保護者であるだけでなく、神の民に対して義を求める清め主でもあることを思い出させてくれます。このような試練を前にして、私たちは、敬虔な気持ちで神を礼拝し、神の憐れみに感謝し、生活のあらゆる面で正義を守るよう求められています。

## 結論

シャドラク、メシャク、アベデネゴの物語は、信仰の保護と浄化の力を示す力強い証しです。火はしばしば破壊の象徴ですが、同時に浄化、力、そして神の存在を表しています。人生において、私たちは多くの比喩的な火に直面します。神を信頼し、神の教えに従うことで、私たちはこれらの試練を乗り越え、シャドラク、メシャク、アベデネゴがそうであったようにより強くなることができます。彼らの物語は、信仰や正義、公正そして次のような試練を乗り越えるとき、神がいつも私たちとともにいて、導き、守ってくださることを思い起こさせてくれます。これらの試練を通して、私たちは清められ 神の永遠で揺るぎない御国に近づいていくのです。

## 振り返り

- 消費主義と物質主義は、現代の偶像礼拝の形態です。これらの偶像はどのような形で私たちの信仰に挑戦しているのでしょうか。
- 個人的な試練の中で、神の存在をどのように理解するのか、また、困難な時に神への信仰を強めるために、どのような実践が役立つのでしょうか。
- 私たちは人生のさまざまな苦難を通して試練を経験します。人生の苦難を、単なる苦しみではなく、霊的成長と道徳的向上の機会としてとらえるには、どのように視点を変えればよいのでしょうか。

## 祝福の祈り

全能の神よ、あなたが私たちの人生に注いでくださった無数の祝福に感謝し、あなたを賛美します。私たちの喜びの時、そして特に試練の時、困難の時にあなたがいてくださることを感謝します。私たちが人生の試練に立ち向かうとき、あなたの絶え間ない守りと力をお与えください。私たちが信仰を堅く保ち、心を清め、あなたの御心に従って生きることができるよう助けてください。義の光を携え、御心に従って生きることができるよう。あなたの永遠の愛と平和で私たちを包んでください。今日もいつも。  
アーメン。

## クリエイティブ・アクション

### ファイアー・サークル

このアクティビティの目的は、参加者に内省と解放の場を提供することです。神との関係、自分自身との関係、地域社会との関係を妨げている偶像や気を散らすものを特定し、手放すことができますようにします。このエクササイズは個人的な成長を促し、地域社会のサポートを育み、燃やすという象徴的な行為を通して霊的な内省を促すことを目的としています。

用意するもの： インデックスカード（参加者が書くための小さな紙）、ペン、薪／火； スターター／マッチ（小さな焚き火を作るためのもの）（安全対策は万全にしておくこと）。

大きなるうそく（屋内の場合に、安全規則に従って使用）。

## 1 | セッティング

■焚き火またはキャンドルを囲み、参加者を円形に集めます。

■参加者にペンとインデックスカードを1枚ずつ配ります。

## 2 | 振り返り

■参加者に少し時間をとってもらい、自分の人生における偶像を書き出してもらいます。それは、神や自分自身、あるいは自分が奉仕する地域社会よりも優先するものです。正直で率直であることを奨励します。

## 3 | シェアリング

■何人かのボランティアに、インデックスカードに書いたことをシェアしてもらいます。この分かち合いを共有することで、参加者同士の連帯感や支え合いを育むことができます。

## 4 | シンボリック・バーニング

各自が分かち合った後、インデックスカードを火にくべる、キャンドルの周りに置く。この行為は、重荷や気を散らすものを手放すことを象徴しています。

## 5 | 熟考

■カードを火の中やキャンドルの周りに置いた後、全員に、数分間炎を見つめるよう呼びかけます。深呼吸をして、神の臨在を炎になぞらえて考えます。暖かく、変容し、照らす炎に例えながら、神の存在について考えます。

## 6 | 最後の分かち合い

■しばらくの沈黙の後、この体験について自分の考えや感じたことを分かち合いたい人がいるかどうか尋ねます。これは、参加者にとって、この活動を整理し、参加者同士をつなぐ強力な方法となります。



DAY 6

# MOVING WITH FAITH THROUGH THE DARKNESS

Jens Christian Kirk, YMCA-YWCA Denmark

## 第6日

### 闇の中を信仰を持って歩む

イエンス・クリスチャン・カーク（デンマーク YMCA-YWCA）

#### はじめに

私たちはしばしば、荒れ野にいることに気づきます。荒れ野とは、聖書のシナイ砂漠やネゲブ砂漠のような、文字通りの荒野のことです。しかし、荒れ野には隠喩的な意味もあります。私たちの目的や帰属意識に対する疑念、自己不信、互いに対する疑念、さらには実存的な疑念などです。

私たちはしばしば暗闇の中にいます。暗闇とは、星のない夜のように文字どおりのものである場合もあります。しかし、荒れ野と同じように、暗闇は比喩的な場合もあります。孤独、困難な経験、脆弱な精神状態はすべて暗闇のように感じられます。荒れ野や暗闇の中で、私たちは光を待ち望みます。

この日の聖書の朗読は、その光についての物語です。

## 聖書朗読

### ■出エジプト記 13: 17-22

さて、ファラオが民を去らせたとき、神は彼らをペリシテ街道には導かれなかった。それは近道であったが、民が戦わねばならぬことを知って後悔し、エジプトに帰ろうとするかもしれない、と思われたからである。神は民を、葦の海に通じる荒れ野の道に迂回させられた。イスラエルの人々は、隊伍を整えてエジプトの国から上った。モーセはヨセフの骨を携えていた。ヨセフが、「神は必ずあなたたちを顧みられる。そのとき、わたしの骨をここから一緒に携えて上るように」と言って、イスラエルの子らに固く誓わせたからである。一行はスコトから旅立って、荒れ野の端のエタムに宿営した。主は彼らに先立って進み、昼は雲の柱をもって導き、夜は火の柱をもって彼らを照らされたので、彼らは昼も夜も行進することができた。昼は雲の柱が、夜は火の柱が、民の先頭を離れることはなかった。

### ■使徒言行録 2:1-4

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。

## 解釈と適用

イスラエルの民がエジプトを出たとき、彼らは大勢の難民でした。今日、多くの難民がそうであるように、彼らは、自分自身と将来の世代のために、より良い未来を見つけることを望んで脱出したのです。彼らは抑圧から逃れ、安全で平和な新しい祖国を探しました。しかし、今日の多くの難民がそうであるように、彼らの「約束の地」に至る最も直接的な道は、危険に満ちていました。潜在的な戦争、略奪者、あるいは捕らえられてエジプトに強制的に連れ戻される恐れさえありました。そこでイスラエルの民は、より長く、より困難な道（う回路）を選びました。荒野、砂漠、海を通るルートです。直接的ルートはあまりにも危険で、それがより安全な選択肢だったからです。

抑圧から逃れて難民になるという経験は、悲劇的なことに、決して特別なものではありません。今日、世界で4,340万人の難民<sup>\*1</sup>がこのことを証明しています。イスラエルの民が逃れてきた地域は、1948年以来、世界で最も難民や避難民の多い地域のひとつです。2023年10月7日以降、パレスチナ人の状況は悪化の一途をたどっています。このことは、避難民の苦境が依然として緊急の課題であることを、私たちすべてに思い起こさせるものです。正義のために、特に難民支援のために活動を続けることは、これまで以上に重要です。

イスラエルの民<sup>\*2</sup>がユニークなのは、難民であることでも、荒れ野を旅することでもありません。彼らの物語を際立たせているのは、そこで神が彼らの導き手となり、決して彼らから離れないという部分です。この物語では、神の臨在は「昼は雲の柱をもって導き、夜は火の柱をもって彼らを照らされたので、彼らは昼も夜も行進することができた。」としています。彼らの経験を重要なものとしているのは、昼も夜も

荒れ野も暗闇も、神が彼らの導き手として存在していることです。これが、この物語が私たちに提供する最も重要なことです。神の臨在は、昼も夜も、荒れ野や暗闇の中でも、私たちの道標であるということです。これは私たち全員にとっても可能なことなのです。

使徒言行録の先を見ると、弟子たちは荒れ野に集まっていませんでした。ペンテコステの日はまだ暗くもありませんでした。しかし、この2、3カ月は、彼らにとってジェットコースターのような感情でした。イエスとともにエルサレムに到着し、エルサレムに入るイエスに歓声を送り、ペサハ（過越の祭り）をイエスと祝い、イエスが捕らえられ、死ぬのを目撃したのです。悲しみの中、彼らは空の墓のことを告げられ、そこから、イエスが復活して自分たちの中に立っておられることを体験しました。そして10日前、イエスは再び彼らのもとを去りました。私は彼らが当惑し、疑心暗鬼に陥ったことは確かに理解できます。その感情は、荒野や暗闇のように私たちに圧倒します。

興味深いことに、ペンテコステの日、聖霊が彼らの上に降ると、火の舌が彼ら一人ひとりの上にとどまり、彼らの中に点火された火を視覚的に表しました。この火は、必ずしも彼らの疑いや当惑を消し去るわけはありませんが、それにもかかわらず行動するよう促すものなのです。それは荒れ野で、暗闇の中で、声を上げ、行動し、人々を導く勇気を与えます。

どちらの文章も、人生の現実を思い起こさせるものです。私たちはこれから荒れ野を歩いたり、暗闇の中を歩んだりすることがあります。困難な経験から守られた人生を期待することはできず、時には、信仰生活は感情的な混乱の期間と感ずることさえあります。しかし、私たちはそのような経験を通じて、暗闇の中で私たちは孤独ではなく、荒野にはガイドがいるという約束が信仰生活にあることを知ることができます。神は私たちの目の前で火柱となり、私たちの心に火をつけてくださいます。

<日本語訳 注>

※1 「国内避難民」6830万人と合わせると、故郷を追われた人は約1億2千万人にのぼる。(UNHCR)

※2 ここでいう「イスラエルの民」は聖書の時代のことであり、現代のイスラエル国を意味するものではありません。

## 振り返り

- 人生の中で、荒れ野をさまよったり、暗闇の中を歩いたりした経験はありますか。
- 暗闇の中で光を見る感覚を知っていますか？
- 火の柱として、あるいは心に火をつける火として、神の臨在をどのように経験しましたか？
- あなたの地域のYMCA/YWCA/コミュニティが難民とどのように関わることができるか考えてみましょう。
- あなたの地域のYMCAやYWCA、あるいは地域社会が、精神的な問題に悩む人々の希望の光となるにはどうしたらよいかを考えてみましょう。

## 祝福の祈り

難民の神よ、

私たちが荒れ野—世界の荒れ野、私たちの心の荒れ野—に導いてください。砂漠、海、峡谷を通して導いてください。さまよう仲間を思いやることができるように、私たちの心を開いてください。

約束の神よ、

私たちが希望の草原、平和のオアシス、避難の丘へと導いてください。私たちが一人ではなく、あなたが私たちと共に歩んでおられることを知ることができるように、伴侶として、導き手として、私たちの迷いの中にいてください。

当惑と疑惑の中にある者たちの神よ、

疑惑の中にある私たちと共に座り、騒がしい沈黙を静め、まばゆい闇を照らしてください。私たちの目の前に導きの光を、私たちの心に火を灯して祝福してください。

アーメン

## クリエイティブ・アクション

暗闇の中を歩く

この活動の目的は、特に不確実な時や困難な時に、地域社会における導き、信頼、支援というテーマについて内省を促すことです。

用意するもの：目隠しになるバンダナまたは小さな布。

### 1 | 準備

障害物のない安全な場所に参加者を集める。

目隠しになるバンダナや小さな布を用意してください。

### 2 | ボランティアの選出

1人が目隠し、もう1人がガイドとなる。

### 3 | アクティビティ

選ばれたボランティアに目隠しをし、見えないようにする。

ガイド：ガイドが目隠しをした人を冷静な言葉による指示で誘導するように指示する。

例：「一歩進んでください」「右に曲がってください」など。ガイドが目隠しをした人に触れてはいけません。目隠しをした人の近くにいて安心させる。

### 4 | 体験を報告する

活動が終わったら、全員を集めて報告会を行う。参加者に次のような質問をしながら、参加者が感じたことや気づいたことを分かち合う。

■目隠しをされた人の場合：暗闇の中を歩くのはどのように感じましたか？

どのような感情や考えを持ちましたか？

■ガイドの場合：目隠しをされた人を誘導するのはどんな感じでしたか？

身体的な接触なしに道案内をするのはどのように感じましたか？

■観察者のために：このアクティビティで気づいたことは？

ガイドと目隠しをされた人との間にどのような関係がありましたか？

■個人的な考察：私たちは目隠しをされた人のように、迷ったり、不確かだと感じたりすることがありますか？神様は、あなたの人生の暗闇の中で、どのような導き手を使って助けてくださいますか？

■コミュニティの振り返り：私たちは時にどのようにガイドのように、困っている人を支援しますか。私たちのコミュニティでは、誰が暗闇を経験しているのでしょうか。私たちはその人たちにどのような導きを与えることができるのでしょうか。

人生の旅路においては、支えとなるガイドであると同時に、信頼できる参加者でもあることの重要性を強調し、セッションを締めくくしましょう。

参加者に、この活動から得た洞察を日常生活に取り入れ、コミュニティの感覚を育み、苦境にある人々をサポートするよう促します。



## 第7日

世界を信仰を持って歩む

ドーリ・ゴーマン（USA、ミドルテネシー州 YMCA）

### 集団礼拝

以下は、今年の世界祈禱週の期間中、またはその終わりに、YWCA/YMCA がテーマである「自然現象に学び信仰をもって歩む」に基づいて、独自の地域礼拝を行うためのガイドとして提供されたものです。

00:00 | 歓迎と紹介

リーダーは参加者を歓迎し、それぞれの状況に適した方法で礼拝を紹介します。以下はその紹介の一例です：

世界祈禱週を祝ったこの一週間、すべての人が「自然環境に学び信仰をもって歩む」よう招かれました。私たちは水の中を共に歩んできました、そして今日、私たちは「風」に焦点を当て、「世界を信仰をもって歩む」ことによってこの一週間を締めくくります。

#### 00:03 | 開会の祈り

リーダー： 私たちのいのちの源、創造主であり支え手であるイエス・キリストからの恵み、憐れみ、平和があなたとともにありますように。

一同： そしてまた、あなたとともに。

リーダー： 今日はまさに神が行動された日

一同： 自由で充実した人生を祝いましょう！

#### 00:04 | 歌 - 「vapor」 - マイケル&リサ・ガンゴール with Good

シェパード・ミュージック・コレクティブ

この選曲は、テーマに合うワークショップコンテンツのタイプの提案です。

<https://youtu.be/mXJNjeVmuF8?feature=shared>

別の曲を使いたい場合もあるでしょう。その場合は別の曲を選んでください。代替りの曲の

選択肢は <https://www.ymca.int/what-we-do/programmes/week-of-prayer/> にあります。

#### 00:09 | ニュージーランドからの主の祈り

ビル・ウォレス、アウテアロア／ニュージーランド

一同： 最も慈愛に満ちた命の与え主よ、あなたを尊敬し、たたえます。

正義と平和と愛の新しい秩序を築くために、私たちがあなたとともに働けますように；

私たちが成長するために必要なものを与え、人を赦すことを通して、赦しを受け入れることができるように助けてください。

試練の時に私たちを強め、あらゆる悪に対抗できるようにしてください。すべての優しさ、強さ、愛は、今も、そして永遠にあなたのものだからです。

アーメン

#### 00:10 | 3人の読者

3つの聖句（参加者の多様な断面を代表する読み手を選ぶ）-その週にこの礼拝を行う場合は、その日の聖句の一部を代用してください。

##### ■旧約聖書 列王記上 19: 11-12

主は、「そこを出て、山の中で主の前に立ちなさい」と言われた。見よ、そのとき主が通り過ぎて行かれた。主の御前には非常に激しい風が起こり、山を裂き、岩を砕いた。しかし、風の中に主はおられなかった。風の後に地震が起こった。しかし、地震の中にも主はおられなかった。地震の後に火が起こった。しかし、火の中にも主はおられなかった。火の後に、静かにささやく声が聞こえた。

##### ■詩篇：詩篇 104: 1-3

わたしの魂よ、主をたたえよ。

主よ、わたしの神よ、あなたは大きいなる方。

栄えと輝きをまとい

光を衣として身を被っておられる。

天を幕のように張り

天上の宮の梁を水の中にわたされた。

雲を御自分のための車とし

風の翼に乗って行き巡り

#### ■新約聖書 ヨハネによる福音書 3:5-8

イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」

#### 00:16 | 呼吸で祈る

この祈りは、リーダーが誘導し、皆に模範を示しながら、息を吸ったり吐いたりして、共に祈りながらゆっくりと読みます。コール・アーサー・ライリー著『Black Liturgies』からの引用です。

リーダー：私たちの創造主は、最初の人間にいのちを吹き込みました。神の霊は、私たちの内に、そして私たちを通して、この世界に生き、動いておられます。私たちが祈るとき、すべての人は次のように招かれています。ゆっくりと息を吸って、吐いてください。

リーダー:息を吸い込む

一同：私たちは孤立に抵抗します

リーダー： 息を吐く

一同：私たちは絶望を押し返します

リーダー： 息を吸う

一同：私たちは自分の体に根を下ろします

リーダー： 息を吐く

一同: この呼吸は知恵を運びます

リーダー: 息を吸う

一同：私たちの内にある御霊の小さな声を思い出します

リーダー： 息を吐く

一同：私たちはひとりではありません

#### 00:20 | 賛美としての創造的アート

このセクションでは、礼拝を盛り上げるための創作アートをご紹介します。私たちを一日を通して、そして世界へと導いてくださる神の静かで小さな声に焦点を当てたモンタージュ、内省、詩、ビジュアル・ア

ート、ダンスなどを制作するには、事前の準備が必要です。

#### 00:25 | 説教

地元の YMCA のリーダーやクリスチャンの牧師を招き、テーマである「信仰をもって歩む」列王記上 19:11-12 を使います。他の箇所を使用することもできますが、列王記上がお勧めです。

#### 00:35 | 内省と祈りの瞬間

このセッションの間、楽器演奏を流すことができます。祈祷リーダーは次の言葉でこのセッションを始めます。

英国のラビで作家のジョナサン・サックスは、列王記上 18 章を振り返ってこう書いています。生命の創造者は生命を愛しています。宇宙を呼び起こしたその声は、静かで小さく、ささやき声よりも小さいです。神の声を聞くには 耳を傾けなければなりません。

今日、私たちは共に過ごす時間を終えるにあたり、この世の慌ただしさ、心配、忙しさの中で、神に耳を傾ける時間を持ちたいと思います。それは簡単なことではないので、このことを共に実践することが重要です。また、礼拝のときだけ静止して神に耳を傾けたくなることもあります。しかし、今日の私たちの願いは、耳を傾けるために静まるのが、日常のリズムの一部となることです。もし私たちが、周囲の静寂やノイズ、地震や強風の影響を小さくし、ささやき声で神とつながる能力をもって一日を過ごし、世界を歩んでいたらどうなるでしょうか。

もう一度、ゆっくりと息を吸い、吐いてください。床に足をつける。座っている椅子の感触に注意を払いながら、自分の身体の安らげる場所を見つけましょう。私がこの言葉を発すると同時に、ゆっくりと息を吸い、吐いてください。

私がこの言葉を口にするとき、ゆっくりと息を吸って吐いてください、そして一緒に沈黙のうちに座りましょう。

そして、考え事や隣の人や部屋の雑音に気を取られたときには、「身動きを止め、静かな小さな声に耳を傾ける」という意図に、そっと戻るようにしましょう。

静まって、わたしが神であることを知りなさい。

(一時停止 - ゆっくりと息を吸って吐く)

静まれ、そして私が存在することを知りなさい。

(一時停止 - ゆっくりと息を吸って吐く)

静まれ、そして知りなさい。

(一時停止 - ゆっくりと吸って吐く)

じっとしていなさい。

(一時停止 - ゆっくりと吸って吐く)

存在しなさい。

(一時停止-ゆっくり吸って吐く)

(静寂の時間を2分間とりましょう-長く感じるでしょうが、一緒に行うことが大切です)。

00:40 | 歌 - 「まだ小さな声」 - ヨハン・グリッデン

ソリ・デオ・グローリア <https://youtu.be/tD9dlqhOCVg?feature=shared>

この選曲は、礼拝のテーマ「自然現象を通して信仰を持って歩む」に合う礼拝内容の提案です。

別の曲を使用することもできます。代替りの曲を使う場合は 神の霊がこの世を動いていることに焦点を当てた曲を選びます。代替りの曲は以下をご覧ください。:

<https://www.ymca.int/what-we-do/programmes/week-of-prayer/>

00:44 | 祝祷 - 道が長いときの祝福

ケイト・ボウラー

リーダー: 完全な静寂の瞬間にいる私たちは、なんと幸いなことでしょう。この静寂は、その声が響き、重なり合い、響き渡るための空間となり、それはやがて、休息し、受け止め、全きものとされるための一つの場所となります。そして、私たちの力が尽きるまさにその時に、神の力が始まることに驚かされる私たちは、なんと幸いなことでしょう。

一同: アーメン

00:45 | 閉会

## 謝辞

- イェンス・クリスチャン・カーク、デンマーク YMCA/YWCA 校長、牧師
- ドーリ・ゴーマン、米国 YMCA ミドルテネシー、協会チャプレン
- サラ・ズヴォニコヴァ、チェコ共和国 YMCA 国際書記
- ジョシュア・ヘイスティングス、YMCA イングランド&ウェールズ、ブランド&デザインマネージャー
- ローラ・アビレス、コロンビア・キンディオ YMCA、ラテンアメリカ・カリブ海 YMCA 同盟
- ソロムジ・マブーザ、元 YMCA 南アフリカ会長
- ダンカン・チョードリー、世界 YMCA 同盟ガバナンス・マネージャー
- ティム・タイラー師、モンバサ州チューダー市フェローシップ・バプテスト教会主任／シニア牧師
- ボニー・グレッツナー、世界 YMCA 同盟コンテンツ・デジタル・コミュニケーション・マネージャー
- ジョン・フィリップス、世界 YMCA 同盟広報部長
- レベッカ・サンゲタ・ダニエル牧師、英国ルーテル教会協議会チャプレンシー&開発部長、英国ルーテル教会牧師
- ダニエラ・ゼラヤ・ラウダレス、世界 YWCA プロジェクト・スペシャリスト
- スペイン語翻訳：マヌエル・キンテロ
- フランス語翻訳：ジャン-フランソワ・デルティユ
- 協力：ノルウェー・チャーチ・エイド (NCA)
- デザイン：ジョシュア・ヘイスティングス
- 聖書日課：エキュメニカル聖書講読ワーキンググループ（カロライン・ミカエリス／ベルリン 10115, 1 番街）

聖書は新改訳標準訳（NRSV）による。（日本語訳は「新共同訳」）

免責事項：この小冊子で述べられている各寄稿者の見解は、必ずしも世界 YWCA や世界 YMCA 同盟の立場を反映するものではありません。

この小冊子に掲載されているイラストは、世界 YWCA・YMCA 合同祈禱週の目的以外には使用しないでください。

## 聖書日課 2024年-2025年

### 2024年12月

1日 (日) 詩編 24  
2日 (月) イザヤ 59:1-15a  
3日 (火) イザヤ 59:15b-21  
4日 (水) イザヤ 60:1-14  
5日 (木) イザヤ 60:15-22  
6日 (金) イザヤ 61:1-11  
7日 (土) イザヤ 62:1-12  
8日 (日) 詩編 144  
9日 (月) イザヤ 63:7-14  
10日 (火) イザヤ 63:15-64:6  
11日 (水) イザヤ 64:7-11  
12日 (木) イザヤ 65:1-10  
13日 (金) イザヤ 65:17-25  
14日 (土) イザヤ 66:1-4  
15日 (日) 詩編 130  
16日 (月) イザヤ 66:5-14  
17日 (火) イザヤ 66:15-24  
18日 (水) ルカ 1:1-17  
19日 (木) ルカ 1:18-25  
20日 (金) ルカ 1:26-38  
21日 (土) ルカ 1:39-56  
22日 (日) 詩編 102  
23日 (月) ルカ 1:57-66  
24日 (火) ルカ 1:67-80  
25日 (水) ルカ 2:1-14  
26日 (木) ルカ 2:15-20  
27日 (金) ルカ 2:21-24  
28日 (土) ルカ 2:25-35  
29日 (日) 詩編 2  
30日 (月) ルカ 2:36-40  
31日 (火) ルカ 2:41-52

### 2025年1月

1日 (水) 詩編 19  
2日 (木) ルカ 3:1-6  
3日 (金) ルカ 3:7-14  
4日 (土) ルカ 3:15-20  
5日 (日) 詩編 72  
6日 (月) ルカ 3:21-38  
7日 (火) ルカ 4:1-13

8日 (水) ルカ 4:14-21  
9日 (木) ルカ 4:22-30  
10日 (金) ルカ 4:31-37  
11日 (土) ルカ 4:38-44  
12日 (日) 詩編 4  
13日 (月) ルカ 5:1-11  
14日 (火) ルカ 5:12-16  
15日 (水) ルカ 5:17-26  
16日 (木) ルカ 5:27-32  
17日 (金) ルカ 5:33-39  
18日 (土) ルカ 6:1-11  
19日 (日) 詩編 3  
20日 (月) ルカ 6:12-16  
21日 (火) ルカ 6:17-26  
22日 (水) ルカ 6:27-35  
23日 (木) ルカ 6:36-42  
24日 (金) ルカ 6:43-49  
25日 (土) ルカ 7:1-10  
26日 (日) 詩編 9  
27日 (月) ルカ 7:11-17  
28日 (火) ルカ 7:18-23  
29日 (水) ルカ 7:24-35  
30日 (木) ルカ 7:36-50  
31日 (金) ルカ 8:1-3

### 2025年2月

1日 (土) ルカ 8:4-15  
2日 (日) 詩編 16  
3日 (月) ルカ 8:16-21  
4日 (火) ルカ 8:22-25  
5日 (水) ルカ 8:26-39  
6日 (木) ルカ 8:40-56  
7日 (金) ルカ 9:1-9  
8日 (土) ルカ 9:10-17  
9日 (日) 詩編 18:1-20  
10日 (月) ルカ 9:18-27  
11日 (火) ルカ 9:28-36  
12日 (水) ルカ 9:37-45  
13日 (木) ルカ 9:46-50  
14日 (金) ルカ 9:51-56  
15日 (土) ルカ 9:57-62

16日 (日) 詩編 18:21-51  
17日 (月) ルカ 10:1-16  
18日 (火) ルカ 10:17-24  
19日 (水) ルカ 10:25-37  
20日 (木) ルカ 10:38-42  
21日 (金) ルカ 11:1-4  
22日 (土) ルカ 11:5-13  
23日 (日) 詩編 15  
24日 (月) ルカ 11:14-26  
25日 (火) ルカ 11:27-32  
26日 (水) ルカ 11:33-36  
27日 (木) ルカ 11:37-54  
28日 (金) ルカ 12:1-12

### 2025年3月

1日 (土) ルカ 12:13-21  
2日 (日) 詩編 6  
3日 (月) ルカ 12:22-34  
4日 (火) ルカ 12:35-48  
5日 (水) ルカ 12:49-53  
6日 (木) ルカ 12:54-59  
7日 (金) ルカ 13:1-9  
8日 (土) ルカ 13:10-17  
9日 (日) 詩編 10  
10日 (月) レビ 1:1-9  
11日 (火) レビ 8:1-13  
12日 (水) レビ 9:1-24  
13日 (木) レビ 16:1-22  
14日 (金) レビ 18:1-6. 19-24  
15日 (土) レビ 19:1-18  
16日 (日) 詩編 25  
17日 (月) レビ 19:31-37  
18日 (火) レビ 25:1-12  
19日 (水) レビ 25:35-43  
20日 (木) ルカ 18:31-43  
21日 (金) ルカ 19:1-10  
22日 (土) ルカ 19:11-27  
23日 (日) 詩編 34  
24日 (月) ルカ 19:28-40  
25日 (火) ルカ 19:41-48  
26日 (水) ルカ 20:1-8  
27日 (木) ルカ 20:9-19  
28日 (金) ルカ 20:20-26  
29日 (土) ルカ 20:27-40  
30日 (日) 詩編 84  
31日 (月) ルカ 20:41-47

### 2025年4月

1日 (火) ルカ 21:1-4  
2日 (水) ルカ 21:5-19  
3日 (木) ルカ 21:20-28  
4日 (金) ルカ 21:29-38  
5日 (土) ルカ 22:1-6  
6日 (日) 詩編 22:1-22  
7日 (月) ルカ 22:7-23  
8日 (火) ルカ 22:24-30  
9日 (水) ルカ 22:31-38  
10日 (木) ルカ 22:39-46  
11日 (金) ルカ 22:47-53  
12日 (土) ルカ 22:54-62  
13日 (日) 詩編 22:23-32  
14日 (月) ルカ 22:63-71  
15日 (火) ルカ 23:1-12  
16日 (水) ルカ 23:13-25  
17日 (木) ルカ 23:26-31  
18日 (金) ルカ 23:32-49  
19日 (土) ルカ 23:50-56  
20日 (日) ルカ 24:1-12  
21日 (月) ルカ 24:13-35  
22日 (火) ルカ 24:36-49  
23日 (水) ルカ 24:50-53  
24日 (木) コロサイ 1:1-8  
25日 (金) コロサイ 1:9-14  
26日 (土) コロサイ 1:15-20  
27日 (日) 詩編 116  
28日 (月) コロサイ 1:21-23  
29日 (火) コロサイ 1:24-29  
30日 (水) コロサイ 2:1-5

### 2025年5月

1日 (木) コロサイ 2:6-10  
2日 (金) コロサイ 2:11-15  
3日 (土) コロサイ 2:16-23  
4日 (日) 詩編 23  
5日 (月) コロサイ 3:1-4  
6日 (火) コロサイ 3:5-11  
7日 (水) コロサイ 3:12-17  
8日 (木) コロサイ 3:18 - 4:1  
9日 (金) コロサイ 4:2-6  
10日 (土) コロサイ 4:7-18  
11日 (日) 詩編 45  
12日 (月) ヨエル 1:1-20  
13日 (火) ヨエル 2:1-11  
14日 (水) ヨエル 2:12-17  
15日 (木) ヨエル 2:18-27

16日 (金) ヨエル 3:1-5  
17日 (土) ヨエル 4:1-21  
18日 (日) 詩編 30  
19日 (月) 使徒言行録 1:1-14  
20日 (火) 使徒言行録 1:15-26  
21日 (水) 使徒言行録 2:1-13  
22日 (木) 使徒言行録 2:14-21  
23日 (金) 使徒言行録 2:22-36  
24日 (土) 使徒言行録 2:37-41  
25日 (日) 詩編 67  
26日 (月) 使徒言行録 2:42-47  
27日 (火) 使徒言行録 3:1-10  
28日 (水) 使徒言行録 3:11-26  
29日 (木) 詩編 47  
30日 (金) 使徒言行録 4:1-12  
31日 (土) 使徒言行録 4:13-22

## 2025年6月

1日 (日) 詩編 27  
2日 (月) 使徒言行録 4:23-31  
3日 (火) 使徒言行録 4:32-37  
4日 (水) 使徒言行録 5:1-11  
5日 (木) 使徒言行録 5:12-16  
6日 (金) 使徒言行録 5:17-33  
7日 (土) 使徒言行録 5:34-42  
8日 (日) 詩編 118:1-14  
9日 (月) 詩編 118:15-29  
10日 (火) 使徒言行録 6:1-7  
11日 (水) 使徒言行録 6:8-15  
12日 (木) 使徒言行録 7:1-16  
13日 (金) 使徒言行録 7:17-29  
14日 (土) 使徒言行録 7:30-43  
15日 (日) 詩編 13  
16日 (月) 使徒言行録 7:44-53  
17日 (火) 使徒言行録 7:54-8:3  
18日 (水) 使徒言行録 8:4-25  
19日 (木) 使徒言行録 8:26-40  
20日 (金) 使徒言行録 9:1-9  
21日 (土) 使徒言行録 9:10-19a  
22日 (日) 詩編 28  
23日 (月) 使徒言行録 9:19b-31  
24日 (火) 使徒言行録 9:32-43  
25日 (水) 使徒言行録 10:1-23a  
26日 (木) 使徒言行録 10:23b-33  
27日 (金) 使徒言行録 10:34-48  
28日 (土) 使徒言行録 11:1-18  
29日 (日) 詩編 12  
30日 (月) 使徒言行録 11:19-30

## 2025年7月

1日 (火) 使徒言行録 12:1-17  
2日 (水) 使徒言行録 12:18-25  
3日 (木) 使徒言行録 13:1-12  
4日 (金) 使徒言行録 13:13-25  
5日 (土) 使徒言行録 13:26-43  
6日 (日) 詩編 103  
7日 (月) 使徒言行録 13:44-52  
8日 (火) 使徒言行録 14:1-7  
9日 (水) 使徒言行録 14:8-20a  
10日 (木) 使徒言行録 14:20b-28  
11日 (金) 使徒言行録 15:1-21  
12日 (土) 使徒言行録 15:22-35  
13日 (日) 詩編 7  
14日 (月) 使徒言行録 15:36-16:5  
15日 (火) 使徒言行録 16:6-15  
16日 (水) 使徒言行録 16:16-24  
17日 (木) 使徒言行録 16:25-40  
18日 (金) フィリピ 1:1-11  
19日 (土) フィリピ 1:12-18a  
20日 (日) 詩編 26  
21日 (月) フィリピ 1:18b-26  
22日 (火) フィリピ 1:27-2:4  
23日 (水) フィリピ 2:5-11  
24日 (木) フィリピ 2:12-18  
25日 (金) フィリピ 2:19-30  
26日 (土) フィリピ 3:1-11  
27日 (日) 詩編 21  
28日 (月) フィリピ 3:12-16  
29日 (火) フィリピ 3:17-21  
30日 (水) フィリピ 4:1-9  
31日 (木) フィリピ 4:10-23

## 2025年8月

1日 (金) 使徒言行録 17:1-15  
2日 (土) 使徒言行録 17:16-34  
3日 (日) 詩編 11  
4日 (月) 使徒言行録 18:1-22  
5日 (火) 使徒言行録 18:23-19:7  
6日 (水) 使徒言行録 19:8-22  
7日 (木) 使徒言行録 19:23-40  
8日 (金) 使徒言行録 20:1-16  
9日 (土) 使徒言行録 20:17-38  
10日 (日) 詩編 14  
11日 (月) 使徒言行録 21:1-14  
12日 (火) 使徒言行録 21:15-26  
13日 (水) 使徒言行録 21:27-40

14日 (木) 使徒言行録 22:1-22  
15日 (金) 使徒言行録 22:23-30  
16日 (土) 使徒言行録 23:1-11  
17日 (日) 詩編 63  
18日 (月) 使徒言行録 23:12-35  
19日 (火) 使徒言行録 24:1-21  
20日 (水) 使徒言行録 24:22-27  
21日 (木) 使徒言行録 25:1-12  
22日 (金) 使徒言行録 25:13-27  
23日 (土) 使徒言行録 26:1-23  
24日 (日) 詩編 17  
25日 (月) 使徒言行録 26:24-32  
26日 (火) 使徒言行録 27:1-12  
27日 (水) 使徒言行録 27:13-26  
28日 (木) 使徒言行録 27:27-44  
29日 (金) 使徒言行録 28:1-16  
30日 (土) 使徒言行録 28:17-31  
31日 (日) 詩編 119:49-56

## 2025年9月

1日 (月) 民数記 6:22-27  
2日 (火) 民数記 9:15-23  
3日 (水) 民数記 10:11-36  
4日 (木) 民数記 11:1-23  
5日 (金) 民数記 11:24-35  
6日 (土) 民数記 12:1-16  
7日 (日) 詩編 119:57-64  
8日 (月) 民数記 13:1-3. 17-33  
9日 (火) 民数記 14:1-25  
10日 (水) 民数記 14:26-38  
11日 (木) 民数記 14:39-45  
12日 (金) 民数記 17:16-26  
13日 (土) 民数記 20:1-13  
14日 (日) 詩編 119:65-72  
15日 (月) 民数記 20:22-29  
16日 (火) 民数記 21:4-9  
17日 (水) 民数記 21:21-35  
18日 (木) 民数記 22:1-20  
19日 (金) 民数記 22:21-41  
20日 (土) 民数記 23:1-12  
21日 (日) 詩編 20  
22日 (月) 民数記 23:13-30  
23日 (火) 民数記 24:1-25  
24日 (水) 民数記 27:12-23  
25日 (木) ルカ 13:18-21  
26日 (金) ルカ 13:22-30  
27日 (土) ルカ 13:31-35  
28日 (日) 詩編 46

29日 (月) ルカ 14:1-6  
30日 (火) ルカ 14:7-14

## 2025年10月

1日 (水) ルカ 14:15-24  
2日 (木) ルカ 14:25-35  
3日 (金) ルカ 15:1-10  
4日 (土) ルカ 15:11-32  
5日 (日) 詩編 104  
6日 (月) ルカ 16:1-13  
7日 (火) ルカ 16:14-18  
8日 (水) ルカ 16:19-31  
9日 (木) ルカ 17:1-10  
10日 (金) ルカ 17:11-19  
11日 (土) ルカ 17:20-37  
12日 (日) 詩編 5  
13日 (月) ルカ 18:1-8  
14日 (火) ルカ 18:9-17  
15日 (水) ルカ 18:18-30  
16日 (木) エゼキエル 1:1-21  
17日 (金) エゼキエル 1:22-28  
18日 (土) エゼキエル 2:1-3:3  
19日 (日) 詩編 1  
20日 (月) エゼキエル 3:4-11  
21日 (火) エゼキエル 3:12-21  
22日 (水) エゼキエル 3:22-27  
23日 (木) エゼキエル 7:1-13.27  
24日 (金) エゼキエル 8:1-11  
25日 (土) エゼキエル 8:12-18  
26日 (日) 詩編 32  
27日 (月) エゼキエル 11:14-25  
28日 (火) エゼキエル 12:1-16  
29日 (水) エゼキエル 16:1-22  
30日 (木) エゼキエル 17:1-10  
31日 (金) エゼキエル 17:11-24

## 2025年11月

1日 (土) エゼキエル 18:1-3.20-32  
2日 (日) 詩編 62  
3日 (月) エゼキエル 22:1-16  
4日 (火) エゼキエル 24:1-14  
5日 (水) エゼキエル 24:15-27  
6日 (木) エゼキエル 33:21-33  
7日 (金) エゼキエル 34:1-16  
8日 (土) エゼキエル 34:23-31  
9日 (日) 詩編 69:1-16  
10日 (月) エゼキエル 36:16-32  
11日 (火) エゼキエル 37:1-14

12日 (水) エゼキエル 37:15-28  
13日 (木) エゼキエル 40:1-16  
14日 (金) エゼキエル 42:15-43:12  
15日 (土) エゼキエル 47:1-12  
16日 (日) 詩編 69:17-37  
17日 (月) Iテサロニケ 1:1-10  
18日 (火) Iテサロニケ 2:1-12  
19日 (水) Iテサロニケ 2:13-20  
20日 (木) Iテサロニケ 3:1-13  
21日 (金) Iテサロニケ 4:1-12  
22日 (土) Iテサロニケ 4:13-18  
23日 (日) 詩編 110  
24日 (月) Iテサロニケ 5:1-11  
25日 (火) Iテサロニケ 5:12-28  
26日 (水) IIテサロニケ 1:1-12  
27日 (木) IIテサロニケ 2:1-12  
28日 (金) IIテサロニケ 2:13-17  
29日 (土) IIテサロニケ 3:1-18  
30日 (日) 詩編 24

20日 (土) マラキ 2:1-9  
21日 (日) ルカ 1:68-79  
22日 (月) マラキ 2:10-16  
23日 (火) マラキ 2:17-3:12  
24日 (水) マラキ 3:13-24  
25日 (木) 詩編 2  
26日 (金) ルカ 2:29-32  
27日 (土) ヨハネ 1:1-5  
28日 (日) ヨハネ 1:6-8  
29日 (月) ヨハネ 1:9-13  
30日 (火) ヨハネ 1:14-18  
31日 (水) 詩編 29

## 2025年12月

1日 (月) ゼカリヤ 1:1-6  
2日 (火) ゼカリヤ 1:7-17  
3日 (水) ゼカリヤ 2:1-9  
4日 (木) ゼカリヤ 2:10-17  
5日 (金) ゼカリヤ 3:1-10  
6日 (土) ゼカリヤ 4:1-14  
7日 (日) サムエル上 2:1-10  
8日 (月) ゼカリヤ 5:1-11  
9日 (火) ゼカリヤ 6:1-8  
10日 (水) ゼカリヤ 6:9-15  
11日 (木) ゼカリヤ 7:1-14  
12日 (金) ゼカリヤ 8:1-13  
13日 (土) ゼカリヤ 8:14-23  
14日 (日) ルカ 1:46-55  
15日 (月) ゼカリヤ 9:9-12  
16日 (火) ゼカリヤ 12:9-13:1  
17日 (水) ゼカリヤ 14:1-11  
18日 (木) マラキ 1:1-5  
19日 (金) マラキ 1:6-14

世界 YWCA/YMCA 合同祈祷週 2024（日本語版）

---

2024 年 11 月 2 日発行

訳者 田尻忠邦

発行者 田口 努

発行所 公益財団法人 日本 YMCA 同盟

〒16-0003 東京都新宿区四谷本塩町 2 番 11 号

電話 (03) 5367-6640

E-mail [info@japanymca.org](mailto:info@japanymca.org) URL <https://ymcajapan.org/>

---